とくに幼稚園の場合、出席日数のように数字で現われるものが少なく、ほとんどが日常の観察記録にたよるほか、方法がない面が多いのですからたいへんです。そして結果的に、半分勘にたよったりする場合がないともいえません。

改訂された指導要録の解説書にはいろいろな補助簿のことについて説明がありますが、まとまって実際に使えるもの、となると、またたちがってくるようです。まったく個人の自由にまかせられている形で、その先生によってまったく結果を異にする場合もあるでしょう。結局、先生の個人差ということになりそうです。

「指導の記録」の記入をより良心的にし、かつ日常の指導に役立つような保育手帖？　のようなものがほしいと思ったりします。

それから評定尺度のことについては、各項目にあたって何か基本的な標準があればと思います。こうした評価に関しても先生方の考え方（ごく常識的なものはさておき）指導の態度によっても、だいぶちがってきますし、よくよくの話し合い、研究のすえ、最も適切と思われるものができたら、と思っています。

幼稚園教育要領の、六領域を、どのように配分し、それを子どもたちによく結びつけ指導していき、最後まで持っていくか、ということを日常の保育で考えるとともに、広い意味で補助簿、もっとせばめて、日常の記録をどのようにしたらよいか、もうすこし考えていきたいと思っています。

それから、知能テストのシーズンに、年々、思うこと一つ。これをおこなう前後の処置について。いろいろな専門の立場の先生方から、御意見や、御指導があるようですが、実際に私の身近で起る家庭での話題をきいておりますと、はたして、これでいいのかしらと思われることがたびたびあります。親の知能テストに対する異状な関心と、頭がいい・悪い、能力がある・ない、という価値判断をそこに現われた数字でし、今後の正しい指導に役立てるどころか、子どもに以外な刺激や、重荷を与えていることです。こうした親の教育はなかなかむずかしい問題とは思いますが、何とかしなければ、と思うことです。

（幼稚園教諭・東京）

思いつくままに

庭瀬貞子

私が幼児教育に心を注ぐようになった遠因は、幼いころ教えていただいた日曜学校の幼稚科の先生でした。フェリス女学校を卒業なさった美しいかたでした。先生のおことばは何にも記憶に残っておりません。ただ清らかなやさしい先生の印象が、幼な心にしっかり刻みつけられ、成長した私の心にいつも生きているのです。「清いものを幼児の心に彫刻したい」これが私の幼児教育の念願であり、一しょに働く先生方すべてに望んでいる一事です。

よい幼稚園であるためには人格のすぐれた先生を得ることです。個々の先生の持っていらっしゃる特技を、たがいによく縦糸横糸に織りこんで、調和のとれた色彩を出すことです。現在、私は園舎も施設も地域環境もまことに申し分がないので、幼稚園それ自体には当面する困難な問題はありません。

強いてあげるならば建物の二階が短大保育科生の教室であるた

め、階下で園児が遠慮なく騒ぐときしばしばこれを制しなければならぬ点です。ことに学期試験の一週間は、先生方が二階に邪魔にならないようたいへん心をつかい、学生が試験がすんで「ホッ」とするのとどうように幼稚園の先生も「ホッ」とするのです。

もう十数年も昔のことです。戦争がはじまった昭和十八年に、東京から御殿場に疎開して幼稚園を開きました。村の子どももおりましたけれど大部分は都会から疎開した幼児たち六十名くらいでした。まったく戦時幼稚園で何の設備もなく疎開者から寄せられたシーソーが一台、杉の木に丸太をわたして作ったブランコ、これが遊具のすべてだったのです。しかし広い畠にはおいもをつくり、とうもろこしをそだてて一しょに食べました。雨が降らないときはいつでも芝生で遊んだり、森を散歩して鳥の声をきいたり、山に登って草花を観察したり、坂をころころころがったりして自然は充分に子どもを遊ばせ育ててくれました。退屈することを知りませんでした。

都会の幼稚園へ帰ってきて感じることは、花壇が占める面積のせまいこと、野菜園のないことです。現在は温室があって結構です。子どもが自分自分で持ってきた草花を植えて楽しむ花壇も五坪ありますが、このほかに野菜畠があって、子どものきらいなにんじんも一しょに種子から栽培し、だんだん大きくなって子どもの手で「ギュッ」と引っぱって長い赤いにんじんがでてきたらどんなによろこぶでしょう。それを兎にも食べさせて子どもたちの給食のお皿にも調理してのせてやったら皆残さずいただくでしょう。

次に環境のことにふれます。園舎が建っている地域は、よくても通園してくる子どもたちひとりひとりが生活している家庭環境や社会環境はそのまま幼児の人格の深層に食い込んで全面的に影響いたします。保育者は毎日幼児に接し、最も感化力の強い人的環境ですから、つねに好ましい状態におくことを努めるとともに、幼稚園外の指導を考え、幼稚園内の指導が徹底するよう家庭と社会の協力を強く求めます。母の講座は毎週金曜日に開き、講演会だけでなく、見学、懇談もいたして、幼稚園の正しいあり方をはっきり認識していただきます。子どもが幼稚園で歌っているうたは全部、お母さまも家庭で一しょに歌えるように練習し、楽譜も歌詩もプリントにしてお渡ししておきます。お母さんの教育とともに啓蒙しなければならないのはおばあさんです。問題を持っている子どもの大部分は「おばあさんっ子」で自主性に欠けております。「小さいのに可哀想だ」と同情して、孫に手をかけ過ぎるのを母親は否定したいのですが、遠慮して言えない。言えば家庭に波乱がおきるので、姑の意のままにさせておく間に問題のある子どもになってしまいます。私どもは老人を尊びねぎらうと同時に、若々しい生命が、幼稚園でどんなにのびのびと、しかも自主的に活動して成長しているかを見ていただくため、敬老会に園児の家庭の御老人をお招きしましたら、たいへんよろこばれました。たびたびこういう機会をつくって、幼児の発達と正しい扱い方を話しあいますなら、きっと協力していただけると思います。

（幼稚園主事・仙台）

玩具祭りの功罪

玉川喜代子